



“社会を明るくする運動”岩手県推進委員会主催  
第73回“社会を明るくする運動”岩手県作文コンテスト

岩手県教育委員会教育長賞

 見方を味方に 

葛巻町立小屋瀬小学校6年

ひがしだて 結心  
東 館

社会を明るくするために私には何ができるだろう。私一人では何もできないのではないか。いや、小さなことから一つずつやればいいんだ。そして、それを広めていけばいいんだ。社会を明るくする運動について考えていたら、そんな結論に私は至った。

よくニュースなどで「未成年者がタバコを吸った。お酒を飲んだ。」あるいは「だれかを殺害した。」など、耳が痛くなるほど毎日毎日朝のテレビで流れてくる。そして、スクールバスの中でこんなことを考える。

「なぜやっちゃったんだろう。」

もんもんとしながら学校生活を送り、家に帰り母に聞いた。

「なぜやってはいけないことをやってしまうのかなあ。」

「やった人はもちろんだめだけど、そういう考えにさせた人が一番悪いよね。」と、言っていた。確かにその様な考えにさせた人も悪いと思う。しかし誰がそんな考えにさせたのだろうか。考えていくうちに、犯罪をしてしまった人の背景には、「親から虐待を受けていた。」「学校でいじめられてストレスがたまっていた」など理由があることがわかった。そして私は、人が育っていく環境が大切であることがわかってきた。見方を変えるだけで見えないものが見えるようになってきた。

あるとき学校で、低学年のけんかを見て仲直りするために対応した。しかし初めは、なんでこんなことでけんかになるのかとあきれながら見ていた。ため息をつきそうになってしまう。しかし話を聞きながら見方を変えていくと、泣いた子はとても嫌なことが起こったからだとわかった。泣かせた子も、理由があってやってしまったことだとわかった。見方を変える

だけで、二人に寄り添うことができた。私は晴れやかな気持ちになり自然と笑顔になった。もしも間違った見方をしてしまっていたら、相手を傷つけたりいじめに発展したりしてしまうかもしれない。将来それが原因で大きな事件・事故にでもなったら後悔することになる。だから、わたしは小さいけんかでも最高学年としてまた執行部の一員として、しっかり受け止めて解決するようにしている。見方を間違えないようにしながら。

また、最近よくあるのが迷惑行為だ。そして、その中で一番許せないと思ったのは、

「親が悪い！」

「親の育て方がだめだ！」

と親のことを何も知らない人が、ネットなどのコメントで責め立てていることだ。見方を変えたら、

「迷惑行為をあおっている周りの人も悪い。止めなかった周りの人も同罪ではないか。」というコメントもできるのではないか。考えがないコメントでさらに違う人まで傷つけてしまっているのではないか。そのようなコメントを見るたびに、一つの見方をするのではなく、様々な視点から物事を見てほしいといつも感じている。

最後に、社会を明るくするために私ができることを考えてみた。「困っている人の話を聞く。」「低学年の小さな争いごとを解決する。」など、社会にとってはとても小さなことかもしれない。しかし、自分にできることを一つ一つしっかり取り組んでいこうと思う。その際は、固定的な見方にするのではなく、相手の立場にも立った見方をしたい。そんな見方を、自分の味方にしていきながら生活していこうと思う。そして、犯罪のないみんなが分かり合える地域になっていけるよう、この運動を家族や学校、地域にも広げていきたい。